

松本部室

信州大学山岳会長野山岳部  
昭和48年度連休(Golden Week)山行

穂高岳

強化合宿・岳沢

個人山行・奥又 報告

○期間

昭和48年4月29日 ~ 5月6日

○場所

穂高岳岳沢(合宿) 奥又白の池定着(個人山行)

○参加者

CL、加賀瀬豊彦(4) SL、西川義典(3)  
小川邦一(3)、尾崎一紀(2)、吉川通裕(2)  
横山勝治(1)  
Special Guest 北沢茂俊(1)

○行動記録

4/29 晴水から曇り一時雨

長野 ~~==~~ 松本 ~~==~~ 新島々 == 上高地 == 岳沢  
夕夜 駅に近い尾崎の下宿に全員で泊る。6時の登山行で長  
野に出発。松本で穂高部の吉川が合流してくる。幸い大交  
通止の影響もなく11時には上高地に到着。計画書を提  
出し、こっそり岳沢へと歩き出す。20:04でテント場につき、  
BCを設営。大型の連休とあって岳沢にも可成りのテ  
ントが張られていた。

4/30. 快晴

BCを5時に出、西木沢上部にて雪上訓練を行う。  
11時頃ともなると、全員一応カッコつくようになり、早々大  
BCに座る。仕方ないのかで午後は春の陽光を満喫  
することと時間をやり過ごす。

5/1 快晴 山に高曇りとなる。

奥明神沢～岩木 Party (加賀瀬、西川、横山)、南極～帯  
根～岩木 Party (西川、小川、尾崎) の2 Partyに分かれて  
5時にBCを出る。奥明神沢のPはキックステップで岩木の  
Peakまで行ってほう(3ピッチ)。南極Pは末端から西川、尾崎  
から下りた後、さしたる困難もなく帯根に上る。岩木Peakで  
両Party合流し、雪かき(さるのを待つ)奥明神沢をグリセード  
でBCに座る。(帰途A沢の降り口を見に行く) この日は  
何回も半日行動。

5/2 雨、風も強し

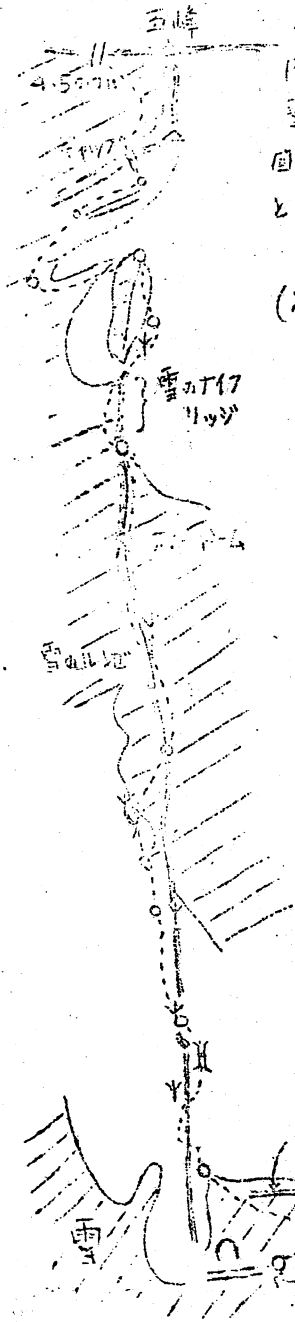
停滞。今日の冬であった為、大雪降る予めがなかった  
と覚悟はしていたものの、木の枝とツェルトが予想以上の  
はたらきをし、殆んど濡れ出す。合宿はこの日迄で  
おいて横山は昼頃下山。

5/3 曇り

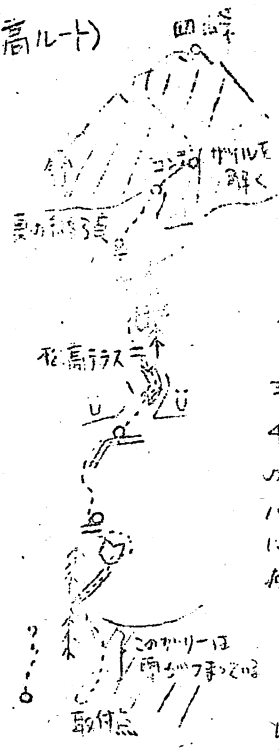
岳沢のBCを撤収し5時出発。奥明神沢に登り、A沢  
をグリセードで奥沢の池に着く。北沢がまだ来ておらず、  
キツ山の上でツェルトをかぶりて我々の到着を待っていてく  
る。池には社会人の2 Partyが張り付いただけで、洞沢  
の混雑ぶりとは比べると、絶好のテニ場といえよう。  
尚、A沢を下降中グリセード失敗によるスリップ事故が起った。幸  
いに大事故にはいたらなかったが、後項に事故報告を記載

5/4 奥山  
北沢・吉川  
で松高ルート  
五峰リッジ

加賀市、花巻のニハチを西峰リッジ  
加賀市、北沢でC.B.A.コース  
K.F.が先行して夏の取付索にある雪のバンドより登ハンと開始  
を開始する。1P(ロープ)間を別して、K.A.・O.が後を追  
う。1P目) 雪壁を右大回り込んでリッジに達する。2P目)  
自前リッジ越し、4ニを抜ける。3P目) 草付の壁を  
雪稜の下まで不登り。4P目) 雪稜末端の雪壁を左大  
回り込んで。5P目~終了まで快適な雪稜の登ハン  
となる。

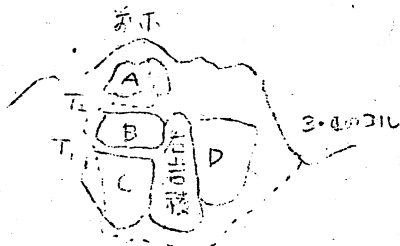


(松高ルート)



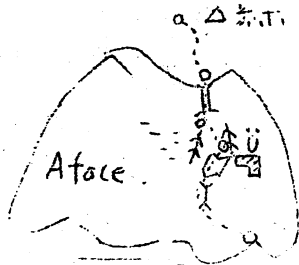
両者とも大回り正面は見え  
体験し少時を合わせておき  
故、最初、一山左のカサカサ  
をとり、余りの滑りの多さに、誤り  
に気付く可き返り。リッジを左大  
回りして雪のつらさより夏のル  
を登る。1P目) 西川topのバンドを右  
上、左の傾斜帯へ。このバンドは  
入口が土砂崩壊しては、恐ろしい。  
3P目) 西川topでハンク下のテラス迄  
4P目) 西川topでハンクなら松壁  
の雪壁をマフミで越し、微妙な  
バランスと腕力をロックして松高行ス  
に到り、その時左の凹角からリッジ  
を回り込んでテラス迄のぼす。  
5P目) 西川topのリッジを左大回り  
枯木のあるベースを左上し夏の終  
点を過ぎ40m(10分)ほど延す。  
2P目) 大きくコンチを登るが、サイルが  
邪魔になり、サイルを解いて、アイ  
ロンを着け四峰へ直接上がる。

四峰の頂上全員が顔を見えて後、西川・小川・尾根・古川はD沢まで、  
 奥のB・Cに降り、加賀瀬・北沢は3・4のコルからC沢に降り、B沢に  
 トラバースしてC・B・Aに上る。



Cフェースは所々雪をつけてあり、緩傾斜。  
 階段状のフェースは、何見何処ルートを取って  
 登れようかという、やまがドココ、駈りまわ  
 りると、どうにもこの身動きがとれなく  
 なるという、始末の悪い壁。こんな壁は  
 ある話してある。

Bフェースについては、当事者達は左端を登ったと言っているのであるが、  
 奥のBCより見ていた限りでは、上部のとおり、左の雪壁にエスケープしている。



Aフェースはオズテラスを左端から右へ右へとトラバ  
 ースし、公式ルートを登ってオズテラスへ抜ける。このフェース  
 よく登られている為、浮石は無く、岩はしっかりしており、  
 適な岩登りが出来る。

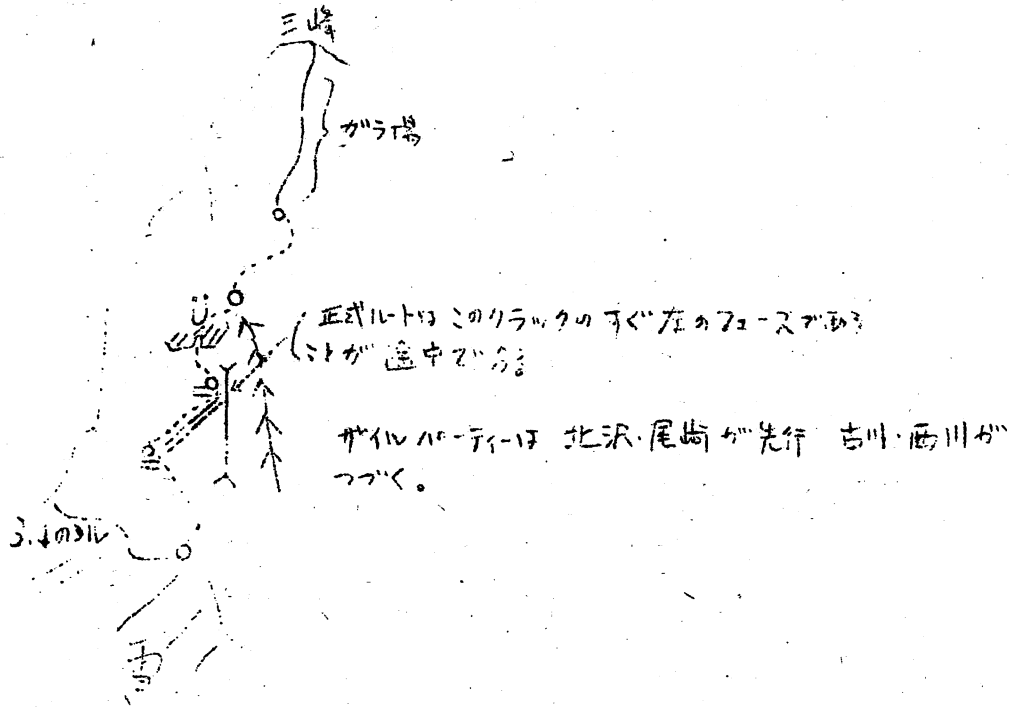
小川はBC下山後、松尾尾根を経て下山

### 5/5 快晴の3時

8時30分を過ぎて、BCに出發。いつもはゆっくりしている社会人もこの日  
 かりはとあのかた出松っている。すでに高い太陽に照らされくまり始めたら  
 5・6のコルに登りつく。五月の北尾根には人々が満載である。空の  
 頃を見はからって五峰、四峰と越える。このとき来るともう11時を  
 のコルは3峰の順番待ちの人で、足元の雪も見えないくらい。人を長く待  
 せておいて、3峰ではゆっくりとカイルを用いて登っている状態。

加賀瀬にコルに達して、四人で三峰フェース日本登高会ルートに向う。洞  
 で待ってもらった可る。(このすぐ後、加賀瀬は3・4の雪渓を洞沢に  
 降る。) 3時向を要して3峰のPeakに出る。急いで尾倉をとり、オズテ  
 越えて、尾根最長コルにケリセドで洞沢へ。加賀瀬と共に  
 5・6のコルを越えて、~~尾根~~最長ルートの中を奥のBCに降り

三峰左ルート



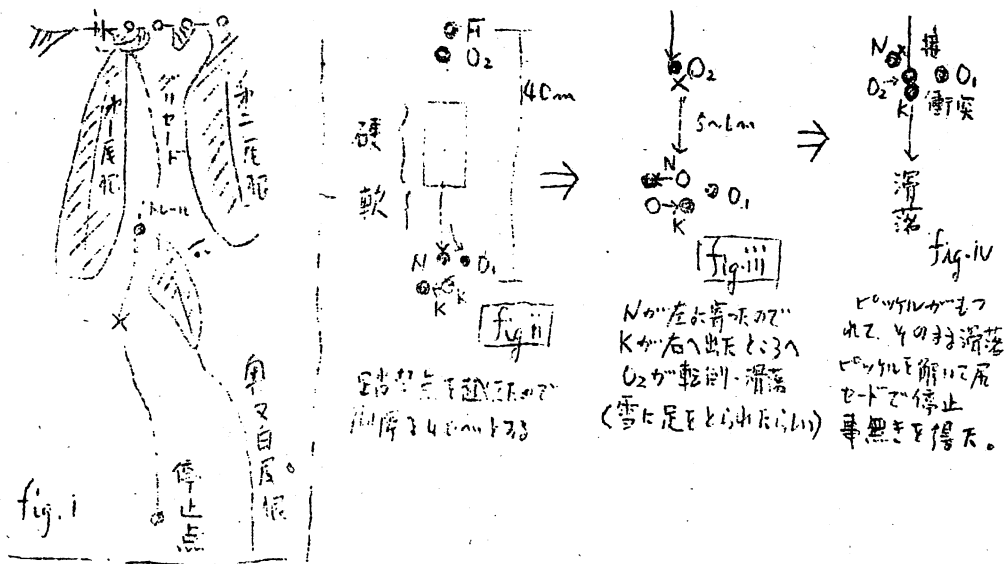
5/6 快晴

連休最後の日。快晴。快晴。7時半にBCに撤収し奥の池に宿大  
有。松高反転列本谷大降り。下谷大山行。奥事(急)を告げ、  
の芽吹川大新緑の道を上高地に下山。

BC — 松高反転 — 下谷 — 信沢 — 上高地 — 新島々 — 弘平 — 長野

○ A沢におけるスリッパ事故

5月3日、毎沢から奥又白川に移動する際、A沢にグリセードで下降中に起った。A沢のツルツリ 20m程度の間隔に区切って、上級生が先に降り、下で待機する3人二年部員2名を降ろすと云う集合で下降していた。踏着点を越えたため、間隔を40mにする。加賀瀬(K)小川(O)、玉川(お)が降りた後、尾崎(O2)がグリセード中、雪に足をとられ転倒・滑落。下で待機中のNに大きく接触、ついでKに衝突、この時二人滑落。50米程滑走したとき傾斜が落ちて停止する。



○ 状態の考察

- 芳日雨が降っており、気温が高かったが日射は無く、カスがかかっていた。
- 雪の状態は表面10cmぐらいしかくさつきアリ、下は少し硬かった。
- グリセードは相当、ツルツリだった。

○ 反省点

- O2はグリセードが未経験であった。A沢は両足背負するのは無理だったのかも。
- キスリングを上級生のツルツリと代えるか、せめてハッキングを直すぐらいのことはすべきであった。
- グリセードを滑ること自体無理だとは考えなくてはならぬ。

以上、資料は加賀瀬。

○五月の山を下りての独白。

波動方程式が私利にムジカシイので山へ行つておりました。

とこから どうでしょう。

山には人が満ちておりました。

日本人はみんな波動方程式が苦みめられていふのであつた。

そこで私と日本人の合同を始めてかせきまくりました。

そして私はやせしてしまいました。

(いや、よくやせましたのであつた。)

№0.038